

午後 試験

問 1

問 1 では、基幹業務システムを Web システムで構築する場合の、運用設計及び処理能力設計について出題した。全体として、正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 3(1) は、正答率が低かった。レビュー前の新システムでの業務処理において、本部サーバが果たす役割を正しく理解してほしかった。“機能しない理由”を問うているにもかかわらず、“通信異常が発生したときの売上登録処理”、“本部サーバ終了後の発注処理”のように処理名での解答もあり、“機能しない理由”と“(機能しないので)できない処理”を混同している受験者がいることがうかがえた。

この設問で問うているように、アプリケーションエンジニアには、正常時の処理はもとより、システムに異常が生じた際の業務処理も考慮した上でシステムを設計する能力が必要となることを理解しておいてほしい。

問 2

問 2 では、情報セキュリティ対策に関する知識及びそれを実現するためのシステム設計能力について出題した。全体として、正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 1 は、プロセスの処理内容を問う基本的な問題であったが、正答率は低かった。解答に当たっては、何をキーにして入力データを三つのファイルに振り分けるのかを、明確に説明することが重要であったが、“三つの出力媒体作成ファイルに出力する”というだけの解答が多く見られた。

設問 4 は、題意がおおむね理解されており、正答率は高かった。しかし、中には、問題文では全く触れていない一般的なリスクに関する解答もあり、問題文中に記されている背景を正しく理解できていない受験者がいることがうかがえた。また、パスワードを委託会社側で変更できることがリスクを増大させるとした解答が少なからずあった。パスワードを利用者に管理させることは一般的な対策であり、そのことが直ちに、セキュリティ上のリスク増大にはつながらないことを理解しておいてほしい。

問 3

問 3 では、企業の合併によるシステム統合を例にとり、システムの方式設計について出題した。全体として、正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようであったが、業務知識や分析力を問う設問は正答率が低かった。

設問 2(1) は、部分的に誤りのある解答が多かった。システム間の連携の図を完成させる設問であり、2 社の合併前のシステムと合併後のシステムの理解が必要であったが、問題文をよく読めば正答を導けたはずである。一方で、システム間の連携のタイミングはよく理解されており、(2) の正答率は高かった。

設問 4 はシステム変更内容に関する設問であるが、“販売システム”と誤って解答した受験者が多く、影響範囲を把握できていないことがうかがえた。マスタの統合は、システム統合において大きな課題であり、その影響範囲を問題文から正確に読み取ってほしい。

問 4

問 4 では、プロジェクト原価管理システムを例にとり、機能・情報定義や、業務変更に伴う設計変更について出題した。全体として、正答率は高く、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 2(2) は、作業費の計算において“プロジェクト番号別、作業工程区分別”に計算することが必須のポイントであることを理解してほしかったが、この記述がない解答が目立った。処理内容の記述に当たって必須のポイントが何かということを、問題文中の背景から十分に読み取ってほしい。

設問 4 は、設計変更すべき処理内容については、正答率が高く、題意が理解されていたようだが、変更対象となる処理名について、不適切な処理名を挙げている解答が散見された。システム機能の定義やシステム要件の変更に当たっては、業務要件の内容と、それを実現するシステム機能を十分に関連付けて理解・把握してほしい。